科目	コーポレートガバナンス	担当	秋山　健太郎	履修学年	3年
時間数：90分×時限×16回（週1回）			履修区分：選択	単位数	2単位

【授業目標・到達目標】
　近年，コーポレート・ガバナンスが注目されており，①企業は誰のものか，誰のために存在するのか，②企業経営者をどのように監視し，評価し，コントロールするのかという，2つの問題が焦点となっている。本講義では，コーポレート・ガバナンスの基本的な仕組みと考え方を習得する。また，現状の課題を整理し，まとめる力を身につけることを到達目標とする。
【履修注意】
・講義でWBT（e-text）を活用するため，必ずパソコンを持参する。
・自ら進んで意欲と熱意を持ってコーポレート・ガバナンスを学び，考える習慣を身につけてほしい。
・ネットにて企業のコーポレート・ガバナンス，CSR等の企業情報にふれてほしい。

【評価方法】
・期末試験と中間まとめの結果を勘案して評価する(期末70%，中間30%)。
・無断で5回以上欠席すると単位はとれない。

【試験について】
・期末試験と中間まとめの実施
　再試験対象者の条件：期末試験と中間まとめを受験した卒業年次生で，中間・期末試験の合計が40%以上のものを対象者とする。

【予習・復習】
　WBTで配信したe-textにより，予習，復習を行う。
【教科書】
・購入教科書なし。
・WBTで配信するe-textを活用。

【参考書】

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	コーポレート・ガバナンスと経営学	コーポレート・ガバナンスの枠組み，企業と社会，各国の特徴
2	コーポレート・ガバナンスの歴史的視点	企業の起源と発展，オランダ東インド会社，企業統治の基本問題
3	コーポレート・ガバナンスと企業倫理	経営者機能，企業倫理，フォードとスローン，企業統治の原型
4	コーポレート・ガバナンスとCSR	企業の社会的責任と社会的責任投資，GRI，戦略的CSR
5	株式会社の発展とガバナンス	経営者支配論，バーリ&ミーンズ，機関投資家，株主主権論
6	米国企業のコーポレート・ガバナンス（1）	米国における株式会社の発展，企業統治論の展開
7	米国企業のコーポレート・ガバナンス（2）	米国の会社機関と企業統治，エンロン事件と企業改革法
8	中間まとめ	前半のまとめ
9	日本企業のコーポレート・ガバナンス（1）	日本の企業形態の発展，経営機構の現状
10	日本企業のコーポレート・ガバナンス（2）	日本の株主総会・取締役会の改革，J-SOX法，内部統制
11	ドイツ企業のコーポレート・ガバナンス	ドイツ企業モデルの特徴，共同決定法，企業統治改革と基準
12	イギリス企業のコーポレート・ガバナンス	イギリス企業モデルの特徴，企業統治改革，企業統治原則
13	ロシア企業のコーポレート・ガバナンス	ロシア企業モデルの特徴，国家資本主義，企業統治改革
14	中国企業のコーポレート・ガバナンス	中国企業モデルの特徴，企業統治改革の3段階，流通・非流通株
15	有効性とその将来展望	各国の企業統治モデルの比較，有効性と限界，将来展望
16	期末試験	15コマの復習・確認・総まとめ